

工事の げんば 現場より

今はこんな様子だよ。



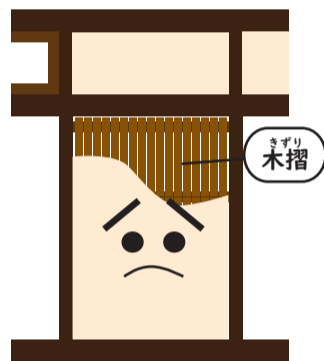
8月3週目

素屋根に覆われた内部では、「耐震補強」の工事を行っています。地震に耐えられるように壁を頑丈にしますが、壁の補強だけでは地震の横揺れに押されて浮き上がることが懸念されます。その対策として、足元に浮き上がり防止のための重石を設置します。重石は鉄筋コンクリート製で、建物内外の観覧に支障が無いよう床下に設けられました。今後床を張る工事をして重石は見えなくなりますが、床下で文字通り「縁の下の力持ち」として活躍し続けてくれます。

今回工事における耐震壁設置工事の方策

現在の壁（木摺壁）

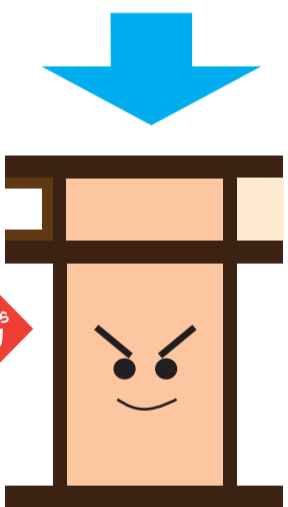
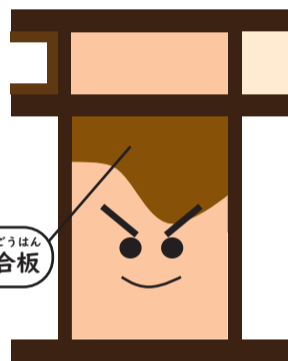
弱い壁



強い力に耐えきれず壊れてしまうかも

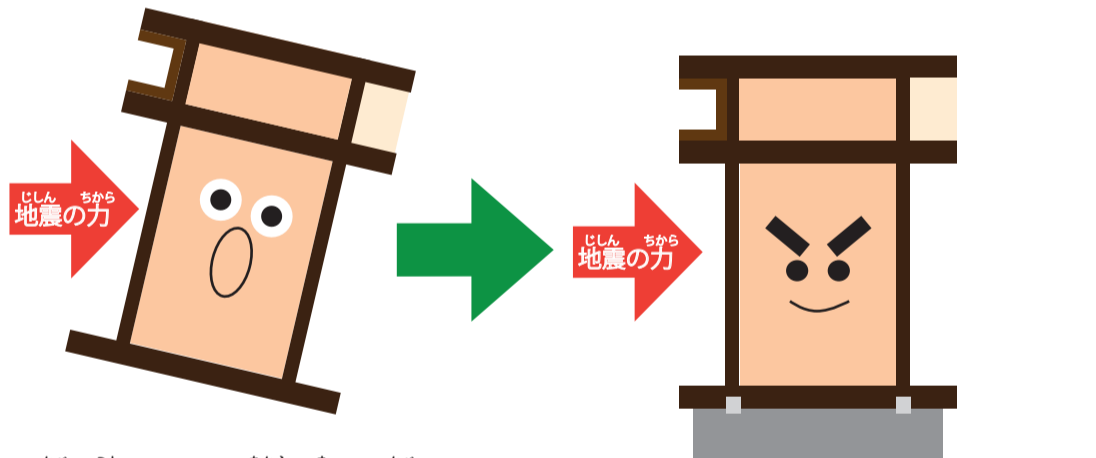
耐震壁（構造用合板）

強い壁



頑丈なので壊れない

※表面の見た目はあまり変わりませんが、ここでは分かりやすくするために色を変えています。



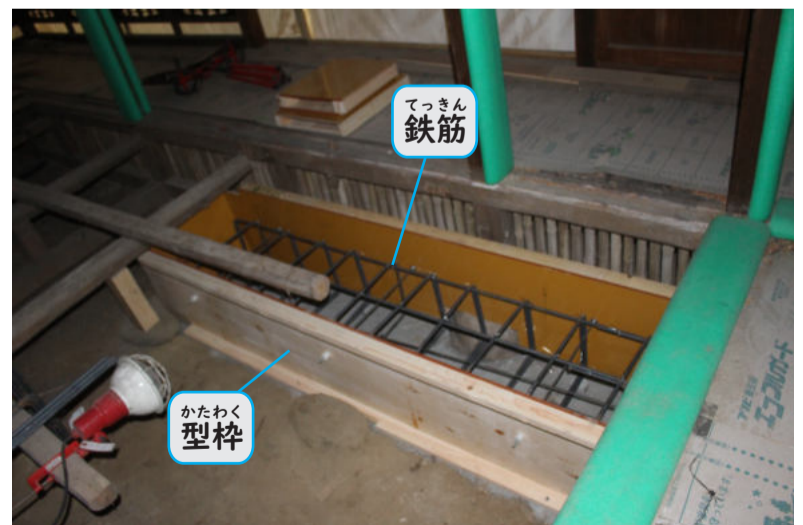
壁は壊れないが、力に負けて壁ごと浮き上がってしまう可能性がある

地下に鉄筋コンクリートの重石を設け、重石と壁をつなぎ、浮き上がりを防ぐ



▲ 重石と壁とを鉄骨で繋いでいる状況。

◀ 耐震壁、重石の状況。この後床が張られるので重石・重石と壁とを繋ぐ鉄骨は見えなくなる。



▲ 鉄筋コンクリート重石施工途中の状況。設計図にのった形に組んだ型枠に、籠状に緊結した鉄筋を入れ、コンクリートを流し込んで固めることで鉄筋コンクリートとなる。